

二十歳の誓い

私はとても退屈して過ごしてきました。日々楽しいことがあるのは確かですが、その楽しみは非常に平凡で、うわべでは愉快地に振舞っていても心の奥底では晴れ晴れとせず、このままつまらない生活が延々と続いていくのだらうなあ、と思っていました。

親からは目標の無さや消極性を指摘され、「積極的に人と交わることを避けてきたからではないか」などと、くどくどと言われ続けてきました。友人からもあまり笑顔を見せないことを指摘され、退屈に過ごしてきたことの表れかと思いつつも、どうすればいいものか考えあぐねてきました。

高校までは私のそのような態度も特に自分にとって煩わしいものではなかったのですが、大学で様々な関係を築いていくなかで、このままで果たして今後の生活が真にすばらしいものになるのか、次第に疑問を持つようになりました。

私はこれまで閉鎖的な態度に甘んじ、受動的な楽しみを享受してきました。しかし、このような生き方は、今後の人生において自分を苦しめることになるのだと、就職し一足早く大人の世界に踏み出した先輩方に教えられました。面倒だと思って避けてきた他人との交わりも、内なる世界を触発しあい、自己を成長させるためには有益だと認識させられました。

今は退屈しのぎで学校に行っているわけではなく、むしろ、新鮮な毎日を自分で掴み取るために学校へ行っています。毎日が試行錯誤の連続で、今までの考え方を揺り動かすような出来事が私を悩ませます。些細な友人関係でやきもきしたり、応募したアルバイトの面接結果に一喜一憂したりする度に、今まで味わうこともなかった、度量の狭さや相手の意図をくみ取る力の乏しさを痛感しています。それは大変面倒な体験ではありますが、同時に、少しずつですが次はこう改善しようと考えさせてくれるのです。

今でも他人の違った感性や考え方に直面して感じる重苦しさをどうすればいいのか分からなくなることはあります。しかし、様々な面からものごとが見られ晴れ晴れとして生き方をするには、積極的に人の考えを受け入れ、自分の中の独善的な思考に修正を加えていきたいと思っています。

これからの人生がより良きものとなるよう、前に進み続けることを「二十歳の誓い」とします。

平成28年1月11日 新成人代表 小山裕太